

2020年が激動の年だったということは、記すまでもないだろう。日本、そして世界で新型コロナウイルス感染症が流行し、人々は困難に見舞われた。中国・武漢市で新型のウイルスが発生したというニュースを耳にしたのは、ちょうど1年前の年末だ。当時ここまでの事態になるとは、多くが想定していなかっただろう。しかし、瞬く間にウイルスは世界に拡散し、私たちは外出自粛の措置や新しい生活様式への移行を余儀なくされた。そして、いまだその猛威が収まる気配

遠のきつつ近づいた世界

らずにいたことに挑戦した方も多くいたに違いない。また、授業や仕事以外で、オンラインを利用したアクティビティに参加した人もいたのではないだろうか。筆者も自粛期間から、オンラインでのダンスクラスをいくつか受講するようになった。筆者はセネガルの踊りに関する人々の研究をしているが、長年そのダンスも愛好し踊っている。しかし、コロナの影響により全てのクラスが中止となったため、オンラインクラスに参加することにしたのだ。

オンラインクラスのメリットは何より、自宅で手軽に受講できることだろう。例えばは直前まで仕事や家事をおこなっていたり、時間

住セネガル人で、生徒は日本人やスペイン人、オランダ人、フランス人と各地に在住。日本人の居住地域もバラバラ。海外とは時差だつてある。それでも同じ時間を共有し、踊る。それがほぼ毎週だ。これまで、世界各地の実践者が顔を合わせた機会是非常に限定的で、実際に現地に行かなければ実現し得なかったことである。それがコロナ禍の、それぞれの自宅において実現したのだ。

感染拡大防止のために人々は移動を制限され、筆者のように海外を調査地とする研究者は、研究の再検討をせざるを得なかった。海外と自由に行き来することができなくなり、コロナのせいで世界が遠くなった、と感じた人も多かったのではないだろうか。

画面通じた共有増加も リアルに敵うものなし

はない。

外出自粛期間中、皆さんは何をしていただろうか。今まではやらなかった、や



愛知淑徳大学 学部助教授
ビジネス
菅野 淑

になり指定されたURLにアクセスすれば、クラスを受けられる。終了後にもすぐに日常生活に戻ることが可能だ。画期的である。デメリットは、画面を通すと理解しづらい部分が多々あることだ。講師側や生徒側がいくら努力しても、リアルなクラスに敵うものはないと痛感する。

しかし、オンラインクラスに参加して気づいたことがある。講師はオンラインで

も、移動せずとも各地を繋いで、仕事や活動をするのが可能になった。人々が画面を通し、県境や国境、時差を超えて共有できるコトが増えたのだ。それが一気に加速した2020年だった。たがやはり、実際に現地に行き自分の目で見る、人々と顔を合わせ時間・空間を共有することは、何物にも代えがたい経験だ。リアルに再び世界が近づく日が早く訪れることを祈る。

かんの・しゆく 文化人類学、アフリカ地域研究、名古屋大学大学院文学研究科博士課程単位取得後満期退学。1966年生まれ。

がある。講師はオンラインで